

愛知のつけもの

創立70周年記念



公益社団法人愛知県漬物協会



発刊のことば

愛知県漬物協会が1953年12月の設立から、70周年を迎えることが出来ましたことに感謝を申し上げ、新たな第一歩を踏み出そうという協会とこれからの漬物業界にエールを送りたいと存じます。また、記念誌の作成にご協力を頂きました関係各位におかれましては、格別なるご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この10年を振り返っても様々なことがありましたが、伝統を継承しながらも現代の食生活に適応し、より愛される漬物づくりに邁進してきのではないかと思います。しかしながら、現状ではネガティブな要素が依然多く、様々な課題が山積し取り巻く環境は益々厳しさを増しております。

これまで3年以上にわたるコロナ禍によって苦戦を強いられてきましたが、直近では物価高やエネルギーコストの上昇などに加え少子高齢化に伴う人手不足が顕著で、適切な改善策を模索している状況にあります。

そのような背景もあって記念誌収録の寄稿文に掲げたテーマは、漬物産業の行く末を憂いて、立ちほだかる難題に向かって私たちが出来る可能性を模索しており、会員各位にとっても有益な事業を推進出来るよう皆様と共に考えて参りたいと思います。

式典では皆様との交流をより深めると共に、この機会に最適解を導きだし、皆様の事業が発展することをご祈念致します。

2024年3月31日

公益社団法人 愛知県漬物協会

会長 曾我 公彦

目 次

発刊のことば	会長	曾我公彦	
70周年を迎えて	名誉会長	大村秀章	3
創立70周年記念 愛知県漬物振興大会式典受賞者			4
創立70周年記念 愛知県漬物振興大会の様子			5
【特別寄稿】			
これからの未来に向かって漬物業界に求められること	副会長	岩田孝逸	7
コロナ禍で生まれた新しい生活様式と漬物の関係	専務理事	浅田康裕	8
労働人口減少という難題をどう乗り切るか	副会長	野田明孝	9
「余白」の場としての青年会	青年会会長	山田耕平	11
漬物関連資材業者から見た今後の漬物業の在り方	副会長	栗田和典	12
世界の和食の状況と漬物を輸出する上での課題	資材機器部会 (キッコーマン食品株式会社 中部支社)	中代智明	13
KJ法で読み解く2024年の世相	顧問理事	大羽恭史	14
平成から令和への10年を振り返って	顧問理事	山田謹一	15
【参考】			
愛知県漬物協会 平成26年～令和6年のあゆみ			16
愛知県漬物協会 歴代役員名簿			18

70周年を迎えて



公益社団法人愛知県漬物協会

名誉会長 大村 秀章

当協会は、1953年に設立以来、漬物業の振興、発展に取り組んでまいりましたが、このたびおかげをもちまして創立70周年を迎えることができました。会員の皆様方には、70年の永きにわたり、協会活動にご協力いただくとともに、愛知県の漬物産業の振興と発展にご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

愛知県は、豊富な野菜原料産地を背景として、古くから漬物づくりが盛んであり、「漬物王国あいち」といわれるほど、全国屈指の漬物産地として歴史を築いてまいりました。

また、漬物は、日本の食文化に欠かすことのできない発酵食品の一つであり、2013年に「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコの無形文化遺産に登録されて以降、和食は世界からも注目されています。近年は、東京オリンピックの開催やアフターコロナにより、訪日観光客は増加し、海外の方々に日本食の良さをPRする機会にも恵まれています。

当協会としても、県関係機関と連携して、漬物製造に関わる研修会や原料野菜の採取事業、食育関連事業や消費拡大イベント等の開催により、漬物振興に努めてまいりましたが、こうした取組に加え、70周年を契機に、歴史ある漬物文化に誇りを持ってあいちの漬物の魅力を国内外に広く発信し、会員の皆様とともに漬物業界の一層の繁栄に貢献してまいりたいと思います。

結びに、会員の皆様方が更なる発展を遂げられることを御祈念申し上げ、御挨拶といたします。

創立 70 周年記念 愛知県漬物振興大会式典受賞者

(敬称略)

◆愛知県知事表彰

佐藤 善雄 (合名会社丸善佐藤商店)

◆公益社団法人愛知県漬物協会会長表彰

小久保 理 (山幸漬物食品株式会社)

太田 光則 (株式会社尾張屋)

乾 伸市郎 (名古屋中央漬物株式会社)

永田 尚也 (株式会社コトジョー)

伊藤 博明 (伊藤商事株式会社)

学校法人糸菊学園名古屋調理師専門学校

アイチタルオ大王

創立70周年記念 愛知県漬物振興大会の様子

2024年2月26日(月)
名鉄グランドホテル



創立70周年記念 愛知県漬物振興大会の様子



愛知県漬物協会 創立70周年記念 愛知県漬物振興大会

令和6年2月26日

於 名鉄グランドホテル

特別寄稿



これからの未来に向かって漬物業界に 求められること

公益社団法人愛知県漬物協会
副会長 岩田孝逸

公益社団法人愛知県漬物協会の創立 70 周年記念大会も、盛大に執り行われました。過去 70 年の先人達の功績に感謝と敬愛の思いを馳せる機会になりました。

また今回の記念講演、坪内知佳氏による「50 年先の未来も漬物業で生きていく」は、我々業界の未来へのヒントとなる内容で、70 周年記念大会にふさわしい素晴らしい講演でした。

今回の参加者の中でも回りを見れば私は最年長組になってしまいました。栄枯盛衰とは世の常とは言え、昔々を知っているのは少数になってしまいましたね。過去を振り返ってみれば、漬物業界も栄華を極めた時代もありました。作れば売れるし、作っても作っても足りないともてはやされて面白いくらい売れた、そんな事もありました。

しかしながらお漬物需要も、最盛期から比較すると半分近くにまで減りました。協会会員も少なくなるばかりです。今回の講演はこんな業界へもっと未来に向かって進みなさいと激励の声だと思いました。

そこでこれからの漬物業界の未来に向かってどうすれば良いのかを考える機会を与えてくださった様な気がします。

まずは反省かもしれません。過去を振り返れば、世の中デフレデフレという中で、量販店の変な価格競争（安売り合戦）に巻き込まれ、正当な利益も得られない（漬物業界だけではないのですが）耐える期間が長く続きました。しかしながら漬物製造にあたり、品質だけは！安全だけは！安心だけは！と頑張ってきたからこそ、今があり将来の栄光が見える気がします。

これからの漬物業界に求められる物はなにか。会員それぞれが業界のため協力し合い団結して行動することです。

1. 漬物製造技術の伝承と若い世代の育成。
2. 品質向上 価格競争から品質競争。
3. 付加価値の向上 機能性食品。
4. 原材料の確保 農家と協力産地育成 愛知特産物。
5. 新製品開発 栄養成分周知。
6. 海外への漬物普及。
7. 漬物振興議員連盟と連携して官民一体で普及活動の推進等。以上チャレンジすることばかりです。

漬物は日本の代表的な食文化であり、誇りと自信をもって漬物づくりに励み、自慢できる漬物、美味しい漬物を消費者にお届けしてこそ、未来に向かって生きていけると思います。長老（まだまだこれからと本人は思っている）から、次世代を担う若手へのメッセージとして記念大会に参加して思った事を書きとめました。

未来の漬物業界の隆盛に繋がればと願うばかりです。



コロナ禍で生まれた新しい生活様式と 漬物の関係

公益社団法人愛知県漬物協会
専務理事 浅田康裕

新型コロナウイルス感染症は2019年12月に中国湖北省武漢市における原因不明の肺炎の集団発生が始まりとされ、翌2020年1月には瞬く間に世界中に感染が拡大し、同月国内でも感染者が確認されると3月にはWHOがパンデミックを宣言する事態になりました。感染が拡大する中、同年4月には7都府県を対象に第1回目の緊急事態宣言が発出されるに至り、以降国民の生活は感染予防にあたり様々な制約が余儀なくされました。感染者の隔離はいうまでもなく、不要不急の外出・移動が制限され、企業も感染予防を前提としたうえでの事業活動を維持継続するため仕組みづくりを模索しました。

学校は休校になり、企業も出社を制限する中、リモートワークの取り組みやオンラインでの授業や会議が採用され、新しい生活様式に対応した日常生活がスタートすることになりました。外出が制限されたことにより外食の回数が激減し、家庭での食事機会が増加したことで漬物の喫食機会も増え、感染拡大当初は家庭用市場向けのメーカー各社は受注が増加し増産に迫られ、感染予防に取り組みながら、綱渡りの生産活動で乗り切りました。

他方、外出・移動の制限は外食や土産物の市場には大打撃になり、業務用向けや地域特産品である守口漬等を取り扱う漬物メーカーは突然の需要蒸発に減産等の対応をせざるを得ない状況が続きました。ウイルスが変異を続け感染者数が一進一退の状況が続く中、Go To イートやトラベルのような政府支援策の実施や、フードデリバリーやテイクアウト、ネットショッピングのニーズが高まりそれに対応した取り組みに各社活路を見出しました。

ウイルスが変異の過程で弱毒化する中、2023年5月に感染症の位置付けが従来の「2類相当」から「5類」に移行したことで行動制限は大幅に緩和されました。今後はコロナ禍に取り組んだ生活様式が単純に元に戻るのではなく、ハイブリッドな形に進化すると見込まれます。コロナ禍で喫食の機会が増えた漬物を継続して食べてもらえるよう、業界としても健康に対する機能性や資源を無駄にしないSDGsの観点からもアピールしながら需要の拡大に努める必要があります。



労働人口減少という難題をどう乗り切るか

公益社団法人愛知県漬物協会
副会長 野田 明孝

現在、日本は少子高齢化が進み、人口減少が進むと同時に労働人口も減り始めています。日本の人口は2008年をピークに減少に転じ、2050年には日本の総人口は1億人を下回るとの予想が内閣府からでております。また、65歳以上の高齢者人口は2023年には3,623万人に達し、総人口に占める割合は29.1%と超高齢化社会に突き進んでいます。(2023年総人口12,442万人)

さて、この労働人口減少が進む事により様々な問題が発生しますが、まず挙げられるのが人手不足です。もうすでに中小企業においては深刻化しており、多くの企業が人材確保に苦慮しています。現在政府は労働人口減少の対策として1億総活躍社会を掲げ「働き方改革」を推進しています。働く人が柔軟な働き方を選べるようにし、高齢者や女性の活躍する場を増やし、雇用の促進を進めると共に外国人労働者にも働きやすい制度改革を進め、多種多様な人が社会で活躍できるように改革しています。

しかしながら、高齢者や女性などの潜在的労働者を増やしても人口が減り続ける中では労働人口減少の歯止めにはなりません。

そこで企業としてやるべき対策は2つあると思います。一つは外国人労働者の採用によるマンパワーの補充です。現在日本国内に在留する資格者は、永住者29%、技能実習12%、就労(技術・人文・国際)、特別永住、留学の順となっていますが、この中で比較的多方面での人材不足を補える資格は技能実習(特定技能含む)と考えられます。漬物業界は技能実習1号なので1年間就労が可能、そして全漬連主催の漬物技能評価試験に合格すれば2年延長でき合計3年間就労することが出来ます。さらに特定技能の試験を受ければ5年間延長が可能となります。これにより一定期間安定的に人材が確保できると、新しい人材を獲得し日本人従業員と合わせた労働体制や労働環境の見直しができ職場の改革をする機会も得れます。

ただ、将来の事を考えるとまだまだ問題点も有ります。まず、受け入れ側に基本人数枠内でしか受け入れられない人数制限が有ります。この制限により必要人数を確保できないことも有ります。次に、受け入れたはいいが日本語能力が足りずことのほか教えることが多く十分なバックアップができない。それにより場合によっては失踪してしまうとか途中帰国してしまう場合もあります。最後にコストの問題です。実習生を受け入れるにあたり海外の送り出し機関と国内の受け入れ機関を通して行います。現地面接、教育、技能実習計画作成、在留資格申請など様々な書類作成や申請が有るため監理団体に依頼せざる負えません。それだけコストがかかるという事です。こういった問題を少しでも多く改善し、実習生を受け入れやすくする環境整備が必要だと

思います。

2つ目の対策は生産性の向上です。人手不足を抑えるために今働いている人材を流出させない事です。長時間労働や休日出勤の抑制。子育てや親の介護など家庭と仕事の両立が出来るワークライフバランスを支援し、人材が辞めてしまわないようにし従業員に長く働いて頂くことが結果として効率性を高めることに繋がります。その為にも業務効率化は必須です。Web会議や商談、ITツールの積極的活用によるペーパーレス化、作業現場の機械化を進め作業効率を上げる事によっての人員削減等生産性向上のための手段をどんどん着手して行く事だと考えています。その為にも国や行政も今まで以上に企業が採用しやすい補助金・助成金・融資が受けられる支援体制を打ち立てると共に、我々企業も積極的に情報収集と制度の活用に取り組まなければならないと思います。

業務に対する生産性向上を進め最小人員で仕事をまわせるようにすると共に、必要な人員は実習生など外国人も柔軟に受け入れ労働力人口減少に対処していくことが必要だと考えています。



「余白」の場としての青年会

公益社団法人愛知県漬物協会

青年会会長 山田耕平

愛知県漬物協会の設立 70 周年、おめでとうございます。漬物協会(親会)が発足したその 10 年後、1964 年 2 月 25 日に創立された青年会も、今年で 60 周年を迎えています。

これまでの 60 年、数百人の人が、青年会としてのさまざまな活動に携わってこられたので、この青年会に対しては、それぞれに考え方、さらには想いもあると思いますが、30 代目の会長を拝命している私自身は、現在の青年会を、メンバーにとっての「余白」のようなものとして考えています。「余白」という多義的な言葉からはいろいろなことを連想されるかもしれませんが、別の表現をすれば、これをしなければならない、こうあるべきという縛りから「自由になれる場所」ということです。「憩い」の場や、スターバックスのコンセプトである「サードプレイス」という言葉も感覚としては近いかもしれません。

愛知県の青年会には、色々な会社、世代のメンバーが集まっています。また、同じ「漬物」という括りや関連性はあるものの、愛知県の漬物会社・資材会社は特に、扱う素材が異なっていたり、販路が異なっていたり、業態そのものが異なっていたりするので、それぞれの仕事内容も本当にさまざまです。そして、そうした多様なメンバーが、商売上の取引関係をほぼ抜きにして、漬物を PR するための販売活動に従事したり、ゆるキャラの大王にピュアな魂を込めたり、全国大会への参加という形で他県への視察旅行を実施しています。こうした活動において、メンバーそれぞれが、普段の業務や会社での立場から少し離れて、一緒の時間を過ごすことで、独特の連帯感が育まれています。また、社外の人と活動に取り組む中、時にお互いの近況や悩みを共有したりすることで、自分自身の仕事のやり方を再考する機会にもなっています。少し大げさですが、人生への向き合い方を見つめ直すきっかけになっていることもあるかもしれません。こうした触れ合いの関係性が、ほどよいバランスでゆるやかに成立しているので、私は、青年会の時間が、メンバーそれぞれにとっての自由の場、「余白」のようなものとして存在していると思うのです。

私自身が青年会に所属できる時間もあと 2 年弱となりましたが、これまで続けてきた青年会の意義、そして将来に向けての青年会の可能性は、これからも変わることなく続いていくはずです。将来、漬物業界に新しい風を吹き込むような若手に育っていてもらうためにも、メンバーにとっての「余白」の場としての青年会を、楽しく、元気に、そして時に熱く、継続していってもらえればと思っています。OB の方も、親会の関係者の方々も、引き続きご支援をいただければ何よりです。



漬物関連資材業者から見た今後の 漬物業の在り方

公益社団法人愛知県漬物協会
副会長 栗田和典

愛知県漬物協会創立 70 周年、誠におめでとうございます。

昨今は、大企業は好調な様相ですが、漬物業や関連する中小企業にとっては、生き残りをかけた大変厳しい時代が続いているのが実情ではないかと推察いたします。

こんな時こそ、各社で組織する組合でまとまり、業界としての施策を行うことに意味があり、価値があると思います。よく言う、組合のメリットではないでしょうか。

実際、ここ数年の組合活動を拝見しますと、議員連盟の設立、外国人雇用支援等々、組合でなければ出来ないハイレベルな仕事を具体的に着々と実行されています。

中心になって活動された執行部の皆様には、心より敬服申し上げる次第です。

さて、これからの漬物業の在り方を考えるにあたり、具体的な施策ではありませんが、一言申し述べさせていただきます。

第1は、漬物業の皆様は、「和食は世界遺産である」そして「漬物は和食を構成する重要な一品である」という立場にあります。是非、それをプライドとしてお持ちください。

第2は、日本全体の人口減少が避けられない今ですが、漬物を食べる機会を意識的に創って、漬物ファンを作りあげ、漬物人口を増やさなければなりません。

聞いた話ですが、食育活動の現場でお母さんや子供さんに試食してもらおうと、「漬物っておいしいね、でも食べたことない、初めて食べた」という反応が多くあるようです。

これは、「漬物自体を知らない消費者層が多く存在する」ということと同じ意味です。

逆から言えば、「未開拓の客層が残っている」ということです。

第3は、漬物を、食べる場面を増やしてください

食事時だけでなく、おやつの代わり、コーヒーを飲みながらでも食べる。楽しい場面でも、悲しい場面でも、何かに混ぜても食べてもらえるように、食べる機会をプレゼンして下さい。

第4は、「残さず食べてもらい廃棄させない」についても、真剣に考えてください。

おいしいのは当然ですが、残さず食べてもらう為に、適正な賞味消費期限の設定や食べる人数や年齢層にも対応した内容量の再設定も AI を利用すれば可能かもしれません。一歩進んで、「全部食べなくなる、食べ残しがもつたいない漬物」を作ってください。

現代では、小学校から、SDG s に対する教育をしています。小学校で SDG s 教育を受けた小学生に、君にできる SDG s は何？と質問すると、「食べ物を残さない」との回答が多く出ます。

SDG s 教育から、食べ物を残す事は悪であり、ごみを発生させるのも悪だと学んでいます。この子供たちが成長すると、「食べ残る食品は買わない」時代が来るでしょう。

思いつくままに雑感を文章にしてみました。私のこの寄稿が、皆様に少しでも参考になれば幸いです。

最後に、会員の皆様の益々のご発展、ご健勝を重ねてご祈念申し上げ、創立 70 周年へのお祝いの寄稿とさせていただきます。



世界の和食の状況と漬物を輸出する上での課題

公益社団法人愛知県漬物協会
資材機器部会 中代 智明
(キッコーマン食品株式会社中部支社)

愛知県漬物協会の創立 70 周年誠におめでとうございます。

協会及び協会員の皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

「10年で約3.4倍」この数字は、農林水産省が2年に1度行っている海外における日本食レストラン数の2023年の調査結果です。経済成長による中間所得層の増加や日本への興味、食の類似性などから特にアジアですさまじい成長を遂げています。市場の大きい米国でも、コロナの影響により直近2年では減少しているものの、長い目で見ると安定的に増加、現在約26,000店の日本食レストランが大都市中心に広がっています。米国の人口約12,500人に一軒の割合にまでなっており、750万人が暮らす愛知県内に約600店あると思えば、かなりの広がりを見せていると言っているのではないのでしょうか。

弊社は日本食材を海外のレストランや小売店に販売する卸売業を世界23カ国で展開するJFC社をグループ会社に持っています。キッコーマンしょうゆはもちろん、JFC社が販売する商品が、海外の皆さんが日本食を楽しんでいただくことに、少なからず貢献できているのは何よりの幸せであります。

かつて、日本食と言えば、寿司、天ぷら、照焼きチキンなどメニューは一辺倒でしたが、最近ではラーメン、とんかつ、うどん、カレー、おにぎりなど昔では見向きもされなかった新しいメニューが海外の方々を魅了させているのはご存じと思います。さらにメニュー豊富な居酒屋、炉端焼きなどの提供スタイルにも変化が出てきていて、専門店化やメニュー、材料の多様化が大きく進んでいます。このような背景で、シェフや消費者は新しい食材やメニューに対し新しく強い興味が出てきています。欧米にはピクルスといった漬物文化もあり、日本の漬物とは何かを伝え、新しい提案などができれば海外市場への展開の大きなチャンスとなるのではないのでしょうか。

ただし、今ある商品をそのまま海外へ送れば良いということではなく、国によって法律や規制が大きく違うところが一番のネックとなっています。日本で使用可能な原料が海外では使用不可だったりするのはよく起きていることで「商品を輸出する」という観点からでも注意が必要です。また輸出するためには、輸出用の書類を英語などで用意しなければならないことに加え、場所によっては通関を含めて輸送に数か月を要す場合もあります。商品が着いた頃には賞味期限切れになっては全く意味もなくなってしまいます。非常に骨が折れる準備や作業ではあり、乗り越える壁は低くはありません。しかし、このような課題を乗り越えた先行事業者の成功例もあり、海外市場での拡大の可能性を考えると、海外展開は一考すべき価値があると言えるのではないのでしょうか。



KJ 法で読み解く 2024 年の世相

公益社団法人愛知県漬物協会
顧問理事 大羽 恭史

KJ 法は、文化人類学者の川喜多二郎氏が考案したデータをまとめる手法です。40 歳の時から、元日の朝は駅の売店に行き日刊紙を買い集め、元旦特集記事を事実カード化して分析を行っています。2024 年各紙の特集記事です。

- 朝日新聞 1、8（はちがけ）社会・・・その未来は幸せか、希望は言葉の中に
2、紛争多発の時代に・・・暴力は許さぬ、関心と関与を
3、いいんですよ、ゆっくりで・・・効率の逆、もたらしたのは
- 毎日新聞 1、「正義」の牙、突如私に・・・遮音（ミュート）社会
2、超える‘24、二つの戦争と世界・・・人類の危機克服に英知を
3、地方創生「政府は覚悟を」
- 読売新聞 1、移植見送り 60 件超・・・救える命、救えなくなる
2、磁力と発信力を向上させたい・・・平和、自由、人道で新時代
- 中日新聞 1、「老い」を寿ぐために・・・たそがれ（誰そ彼）のとき
2、バランスか自国優先か・・・今秋、米大統領選
3、贈り物でなく預り物
4、南北「もはや同族でない」・・・朝鮮統一目指す方針から転換
5、待つ人がいるから・・・路線バスで行こう

キーワードを抜き出し、KJ 法でまとめてみました。

『効率を追求してきた昭和のシステムは世界中で行き詰まり、国連の調整機能は働かず、世界の紛争は長期化、熾烈になった。日本は円安ドル高の経済下で輸出企業が高収益をあげる一方、原材料を海外に依存する企業はコスト高を吸収できず、貧富の格差が増大している。出生率の低下は日本の成長力を奪い、労働力不足が地方の活力をそぎ、国内農業の基盤を壊そうとしている。長生きすることすら苦しい時代を迎え、私たちは縮小社会に耐えられるであろうか。』

2024 年、世界中で株価は高騰を続け、年末の日経平均株価は 1989 年末の 38,915 円を突破して 40,000 円台になるという予測も出ていますが、再びバブルは来るのでしょうか。世界経済はどこかで天井を打ち、しかるべき株価に収まるように感じます。

景気の波に乗り切れない漬物業界は、浮かれることなく着実に体質改善を進め、縮小社会になってもガタガタしない業界でありたいと思います。



平成から令和への10年を振り返って

公益社団法人愛知県漬物協会
顧問理事 山田 謹一

70周年ということは、私が小学校に上がる頃に設立されたということです。それだけ長年の年月に渡って、多くの会員とその関係の方々が、この会のために尽力されてきたことを思うと感慨もひとしお、感謝の気持ちでいっぱいです。

愛知県漬物協会は、全国に先駆けて戦後最も早く設立され、全国一の漬物の生産と販売を担ってきました。会長には桑原幹根氏、鈴木礼治氏と歴代の知事に就任していただき、恵まれた環境で会は運営されてきました。そして現在は大村秀章現知事に名誉会長になっていただいています。現会長の曾我公彦氏は第7代目の会長となります。

この10年を振り返ると、会長は2011年、木村守雄氏から大羽恭史氏に代わりました。当時は漬物の消費が低迷し、会員の減少がみられる頃でしたが、長きにわたり熱心に会の運営に努めていただきました。また、任期後半にはコロナ感染症が蔓延し、会の運営も難しく、ご苦労だったことと拝察します。

大羽さんの後を受けて私が会長になりましたが、在任中は総会も理事会もリモートで行う有様でした。ただその頃は家食の増加で漬物の消費も久しぶりに回復し、日本人の食には、やはり米と味噌と漬物が欠かせないものだと感じました。

コロナ禍もあり在任中はたいしたこともできませんでしたが、ただひとつ、中部漬物協会の会長ということもあって全漬連に副会長として参加することができました。そこで九州の野崎漬物の野崎会長のもと、漬物議員連盟が設立されたことは意義あることだと思います。

わずか2年ではありましたが、私にとっては漬物が今後どうあるべきか考えさせていただくよい機会でありました。これからも消費拡大は大変だと思いますが、漬物の良さが見直され、日本の伝統食の一つとして、食を楽しむ大事な食品であり続けることは間違いのないと思います。

これからの10年に向かって、曾我会長のもと、会員が協力して業界の繁栄、そして何よりお互いの事業が発展することを心より祈念いたします。

参

考

愛知県漬物協会70年のあゆみ(平成26年～令和6年)

年月日	主 な 行 事
26. 1. 6	漬物振興祭(於 熱田神宮) 振興祈願、式典
26. 2. 16	T-1グランプリ決勝大会 アイチタルオ大王によるPR (於 サンシャインシティホール)
26. 3. 4	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)
26. 5. 27	平成26年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル)
26. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」 による漬物PR(於 萱津神社)
26. 11. 3	ゆるキャラグランプリ2014inあいち セントレアでの販売、PR (於 セントレア空港)
26. 11. 13	あいちの農林水産フェアへの出展 漬物創作料理試食、展示、販売(於 丸栄本店)
26. 12. 19	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
27. 1. 6	漬物振興祭(於 熱田神宮) 振興祈願、式典
27. 1. 29	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)
27. 5. 25	平成27年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル)
27. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」 による漬物PR(於 萱津神社)
27. 11. 12	あいちの農林水産フェアへの出展 ぬか漬けづくり体験、販売(於 丸栄本店)
27. 12. 21	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
28. 1. 6	漬物振興祭(於 熱田神宮) 振興祈願、式典
28. 3. 3	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)
28. 5. 24	平成28年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル)
28. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」 による漬物PR(於 萱津神社)
28. 11. 9	あいちの農林水産フェアへの出展 ぬか漬けづくり体験、販売(於 名古屋三越栄店)
28. 12. 22	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)

年月日	主 な 行 事
29. 1. 6	漬物振興祭(於 熱田神宮) 振興祈願、式典
29. 3. 9	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)
29. 5. 25	平成29年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル)
29. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」による 漬物PR(於 萱津神社)
29. 11. 8	あいちの農林水産フェアへの出展 販売、展示(於 名古屋三越栄店)
29. 12. 20	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
30. 1. 6	漬物振興祭(於 熱田神宮) 振興祈願、式典
30. 3. 2	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)
30. 5. 24	平成30年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル)
30. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」による 漬物PR(於 萱津神社)
30. 11. 23	あいちの農林水産フェアへの出展 販売、展示(於 金山総合駅)
30. 12. 20	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
31. 1. 6	漬物振興祭(於 熱田神宮) 振興祈願、式典
31. 1. 6	創立65周年記念表彰(於 熱田神宮会館) ・漬物振興功労者表彰 知事表彰 6名、会長表彰 7名
31. 3. 4	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)
令和	
1. 5. 28	令和元年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル)
1. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」による 漬物PR(於 萱津神社)
1. 11. 23	あいちの農林水産フェアへの出展 販売、展示(於 金山総合駅)
1. 12. 20	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)

愛知県漬物協会70年のあゆみ(平成26年～令和6年)

年月日	主 な 行 事
2. 1. 6	漬物振興祭 (於 熱田神宮) 振興祈願、式典
2. 3. 4	漬物技術研究会 (於 県食品工技センター) 中止
2. 5. 19	令和2年度通常総会 (於 名鉄ニューグランドホテル) 中止
2. 8. 21	公式キャラクター「アイチタルオ大王」による漬物PR (於 萱津神社)
2. 11. 未定	あいちの農林水産フェアへの出展 中止
2. 12. 20	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
3. 1. 6	漬物振興祭 (於 熱田神宮) 中止
3. 3. 4	漬物技術研究会 中止
3. 4. 4	公式キャラクター「アイチタルオ大王」による漬物PR (於 萱津神社)
3. 4. 28	令和3年度通常総会 (書面開催)
3. 10. 22	あいちの農林水産フェアへの出展 ～23 あいちの漬物の展示、販売 (於 スカイクエスト)
3. 12. 21	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
4. 1. 6	漬物振興祭 (於 熱田神宮) 中止
4. 3. 3	漬物技術研究会 (オンライン)
4. 4. 10	公式キャラクター「アイチタルオ大王」による漬物PR (於 萱津神社)
4. 5. 24	令和4年度通常総会 (オンライン)
4. 6. 18	食育推進全国大会への出展 ～19 あいちの漬物の展示、販売 (於 スカイクエスト)
4. 12. 23	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)
5. 1. 6	漬物振興祭 (於 熱田神宮) 振興祈願、式典
5. 3. 2	漬物技術研究会 (於 県食品工技センター)
5. 5. 29	令和5年度通常総会 (於 名鉄グランドホテル)
5. 11. 5	あいちの農林水産フェアへの出展 あいちの漬物の販売 (於 金山総合駅)
5. 12. 20	守口大根採種事業母本選抜(於 扶桑町)

年月日	主 な 行 事
6. 1. 6	漬物振興祭 (於 熱田神宮) 振興祈願、式典
6. 2. 26	創立70周年記念「愛知県漬物振興大会」 (於 名鉄グランドホテル) ・漬物振興功労者表彰 知事表彰 1名、会長表彰 7名 ・記念講演 「50年先の未来も漬物業で生きていく ～船団丸から何を学び、何をすべきか～」 講師：(株)GHIBLI 坪内知佳代表取締役
6. 3. 5	漬物技術研究会(於 県食品工技センター)

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	昭和28年	昭和34年	昭和34年	昭和36年	昭和38年	昭和38年
区 分	創立総会 (S28.12.4)	合併・新発足 (S34.1.26)	会員名簿 (10月末現在)	会員名簿 (6月末現在)	法人設立総会 (S38.9.21)	会員名簿
会 員 数	78	140	146	134	(136)	135
会 長	稲田 萬吉	桑原 幹根	桑原 幹根	桑原 幹根		桑原 幹根
副 会 長	浅田 康弼 大羽 至 小野 広次	稲田 萬吉 鈴置理樹雄 山分 一郎	稲田 萬吉 山分 一郎 (欠員)	稲田 萬吉 柿原 春次 田母神利衛		稲田 萬吉 柿原 春次 田母神利衛
専務理事	東覚 治郎	早川 昶	早川 昶	早川 昶		早川 昶
常務理事	小久保幸太郎 鈴木好治 早川 昶	安藤米秋 岩田 勳 大羽 至 小野 広次 柿原 春次 白井滋一 谷 荒次郎 鷺津良男	安藤米秋 岩田 勳 大羽 至 小野 広次 柿原 春次 白井滋一 谷 荒次郎 船木通夫 鷺津良男	船木通夫 柴田藤一 小島義彦 小野 広次 山田清三 鷺津良男 沢井義平 大羽 至		船木通夫 柴田藤一 小島義彦 小野 広次 山田清三 鷺津良男 沢井義平 大羽 至
理 事	安藤 惣一 安藤米秋 石川茂助 石田寅吉 岩田米逸 内田良平 江崎邦雄 沢井義平 田中秀吾 谷 荒次郎 土屋茂七 成田 鉦一 野田 一次 松浦福次 水野 劍三 箕浦春太郎 鷺津良男	浅田 康弼 井口丈夫 打田一美 沢井義平 清水市次郎 鈴木文吾 都築鉄重 長縄基次 野田 一次 堀田清一	浅田 康弼 井口丈夫 打田一美 沢井義平 清水市次郎 鈴木文吾 都築鉄重 長縄基次 野田 一次 堀田清一	井口丈夫 伊藤鈴吉 稲垣峯雄 岩田米逸 大野利鑑 神谷 進 後藤豊太郎 清水市次郎 日比野修三 広瀬 巖 堀田清一 松永 保 森 保	安藤米秋 井口丈夫 稲田 萬吉 岩田 勳 大羽 至 小野 広次 神谷 進 小島義彦 沢井義平 柴田藤一 鈴木夏男 成田 鉦一 野田 一二 日比野修三 堀田清一 松永 保 山田清三 鷺津良男 桑原 幹根 田母神利衛 船木通夫	井口丈夫 稲垣峯雄 岩田米逸 大野利鑑 神谷 進 清水市次郎 鈴木仲助 日比野修三 広瀬 巖 堀田清一 松永 保 森 保
監 事	大野利鑑 野口秀夫 浅井芳太郎	成田 鉦一 近藤市太郎	成田 鉦一 近藤市太郎	成田 鉦一 近藤市太郎	大野利鑑 鈴木仲助 中川左内	成田 鉦一 鈴木夏雄
顧 問		横井 太郎	横井 太郎			橋本繁蔵 横井 太郎

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	昭和39年				昭和40年	昭和41年
区 分	定例総会 (S39.5.27)	臨時総会 (S39.8.21)	理事会 (S39.8.28)	臨時総会 (S39.10.22)	通常総会 (S40.6.1)	通常総会 (S41.5.26)
	役員選任	役員選任	役職変更	補欠選任	補欠選任	補欠選任
会 員 数	146	146	-	-	147	152
会 長	桑原幹根	→	→	→	→	→
副 会 長	田母神利衛	→	→	→	恒川一夫	→
	稲田萬吉	→	安藤米秋	→	→	→
	-	-	-	-	-	-
専務理事	安藤米秋	→	日比野修三	→	→	→
常務理事	二村正治	→	→	→	→	→
理 事		浅井進一	→	→	→	→
	井口丈夫	→	→	→	→	→
				稲田桂	→	→
		岩田勳	→	→	鈴木好治	岩田勳
	岩田正次	→	→	→	→	→
	大羽至	→	→	→	→	→
				櫛田英也	→	→
		小島義彦	→	→	→	→
		柴田藤一	→	→	→	→
		中川左内	→	→	→	→
	成田鉦一	→	→	→	→	→
	野田一次	→	→	→	→	→
		平野松次郎	→	→	→	→
		廣田昭正	→	→	→	→
	日比野修三	→			松永保	→
		水野劍三	→	→	→	→
	山田清三	→	→	→	→	→
鷺津良男	→	→	→	米倉清一	→	
				→	→	
監 事	澤井義平	→	→	→	→	→
	鈴木仲助	→	→	→	→	→
	横井進	→	→	→	→	→
顧 問	橋本繁蔵	→	→	→	→	→
	横井太郎	→	→	→	→	→
参 与	-	-	-	-	-	-

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	昭和42年	昭和44年	昭和45年	昭和46年	昭和48年	昭和49年	
区 分	通常総会 (S42. 6. 6)	通常総会 (S44. 6. 4)	通常総会 (S45. 6. 1)	通常総会 (S46. 6. 2)	通常総会 (S48. 6. 4)	通常総会 (S49. 6. 3)	
	役員改選	-	役員改選	補欠選任	役員改選	-	
会 員 数	151	159	161	160	159	159	
会 長	桑原幹根	→	桑原幹根	→	桑原幹根	→	
副 会 長	金井芳朗	藤井重男	藤井重男	蟹江良嗣	蟹江良嗣	→	
	安藤米秋	→	安藤米秋	→	安藤米秋	→	
	-	-	大羽 至	→	大羽 至	→	
専務理事	水野劔三	→	浅田康弑	→	浅田康弑	→	
常務理事	二村正治	→	二村正治	岡 秀樹	岡 秀樹	→	
理 事	浅田康弑	→	安藤惣一	→	安藤惣一	→	
	安藤惣一	→	稲垣峰雄	→	稲垣峰雄	→	
	石川茂助	→	稲田萬吉	→	稲田萬吉	→	
	稲田萬吉	→	岩狭貞次郎	→	岩狭貞次郎	→	
	岩狭貞次郎	→	岩田 勳	→	岩田正次	→	
	岩田 勳	→	岩田正次	→	小野広次	→	
	岩田正次	→	小島義彦	→	神谷 進	→	
	大羽 至	→	榑原正市	→	櫛田英也	→	
		川村 豊	沢井義平	→	小島義彦	→	
	木下長蔵	→	柴田藤一	→	榑原正市	→	
	木村保雄	→	白谷健太郎	→	柴田藤一	→	
	小島義彦	→	鈴木信吉	→	白谷健太郎	→	
	沢井義平	→	曾我米三	→	曾我米三	→	
	鈴木 勉	→	中川左内	→	中村年宏	→	
	曾我米三	→	中村年宏	→	成田重彦	→	
	成田重彦	→	成田重彦	→	成田鉦一	→	
	西川栄一郎	→	成田鉦一	→	西川一見	→	
	日比野修三	→	西川一見	→	服部 計	→	
	松永 保	→	日比野修三	→	日比野修三	→	
		箕浦弘美	→	箕浦弘美	→	箕浦弘美	→
		山内 曙	→	村松忠雄	→	山内 曙	→
	鷺津良男	→	米津賢市	→	鷺津良男	→	
			鷺津良男	→			
監 事	佐藤善照	→	加藤 惇	→	加藤 惇	→	
	鈴木仲助	→	鈴木仲助	→	鈴木仲介	→	
	服部 計	→	村上正一	→	村上正一	→	
顧 問	橋本繁蔵	→	橋本繁蔵	→	橋本繁蔵	→	
	横井太郎	→	横井太郎	→	横井太郎	→	
参 与	-	-	-	-	-	-	

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	昭和50年	昭和51年	昭52年	昭和53年	昭54年	昭55年
区 分	通常総会 (S50. 5. 20)	通常総会 (S51. 5. 27)	通常総会 (S52. 5. 25)	通常総会 (S53. 5. 15)	通常総会 (S54. 5. 18)	通常総会 (S55. 5. 30)
	役員改選	役員改選	-	補欠選任	役員改選	補欠選任
会 員 数	159	157	157	155	151	153
会 長	桑原幹根	桑原幹根	→	桑原幹根	桑原幹根	→
副 会 長	安藤米秋	安藤米秋	→	安藤米秋	大羽 至	→
	大羽 至	大羽 至	→	大羽 至	白谷健太郎	→
	-	鷺津良男	→	鷺津良男	日比野修三	→
専務理事	小島義彦	小島義彦	→	小島義彦	曾我米三	→
常務理事	岡 秀樹	大石政次	→	大石政次	三浦清司	→
理 事	浅田康弼	浅田康弼	→	浅井 貢	浅井 貢	→
	安藤惣一	伊藤 鉦一	→	浅田嘉行	浅田嘉行	→
	稲垣峰雄	稲垣峰雄	→	伊藤 鉦一	朝日和男	→
	稲田萬吉	稲田萬吉	→	稲垣峰雄	安藤米秋	→
	岩田正次	岩田正次	→	稲田萬吉	石川茂雄	→
	神谷 進	神谷 進	→	岩田正次	稲垣峰雄	→
	櫛田英也	木村保雄	→	神谷 進	稲田萬吉	→
	榊原正市	櫛田英也	→	木村保雄	岩瀬釧太郎	→
	柴田藤一	榊原正市	→	櫛田英也	岩田 勲	→
	白谷健太郎	佐藤治男	→	榊原正市	岩田正次	→
	杉本 勇	柴田藤一	→	佐藤治男	小川寿人	→
	曾我米三	杉本 勇	→	柴田藤一	神谷 進	→
	中村年宏	曾我米三	→	曾我米三	櫛田英也	→
	成田重彦	中川省三	→	中川省三	小久保芳男	→
	成田鉦一	中村年宏	→	中村年宏	小島義彦	沢井義平
	西川一見	成田重彦	→	成田重彦	佐藤治男	→
	服部 計	成田鉦一	→	成田鉦一	高瀬善重	→
	日比野修三	西川 登	→	西川 登	中川省三	→
	箕浦弘美	服部 計	→	服部 計	成田重彦	→
	村松忠雄	日比野修三	→	日比野修三	成田鉦一	→
	山内 曙	広田昭正	→	広田昭正	西川一見	→
鷺津良男	箕浦弘美	→	箕浦弘美	野田一次	野田三郎	
	山内 曙	→	山内 曙	服部 計	→	
				箕浦弘美	→	
				三輪勝巳	→	
				山田清三	→	
				鷺津良男	(欠)	
監 事	加藤 惇	加藤 惇	→	鈴木仲助	澤井平治	澤井平治
	鈴木仲助	鈴木仲助	→	三輪勝巳	柴田藤一	柴田藤一
	村上正一	村上正一	→	村上正一	堀場茂三	堀場茂三
顧 問	仲谷義明	仲谷義明	→	仲谷義明	仲谷義明	仲谷義明
	橋本繁蔵	橋本繁蔵	→	橋本繁蔵	橋本繁蔵	橋本繁蔵
	横井太郎	横井太郎	→	横井太郎	横井太郎	横井太郎
参 与	中村 隆	中村 隆	→	国枝利定	国枝利定	奥田信之

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	昭和56年		昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年
区 分	通常総会 (S56. 5. 18)	臨時総会 (S56. 8. 21)	通常総会 (S57. 5. 27)	通常総会 (S58. 5. 25)	通常総会 (S59. 5. 21)	通常総会 (S60. 5. 23)
	補欠選任	補欠選任	役員改選	-	-	役員改選
会 員 数	149	150	148	146	146	140
会 長	→	→	桑原幹根	→	→	桑原幹根
副 会 長	→	→	大羽 至	→	→	大羽 至
	→	→	日比野修三	→	→	日比野修三
	→	→	曾我米三	→	→	曾我米三
専務理事	→	→	服部 計	→	→	服部 計
常務理事	伊藤定昭	→	伊藤定昭	→	→	栗田寿一
理 事	→	→	浅井 貢	→	→	浅井 貢
	→	→	浅田嘉行	→	→	浅田嘉行
	→	→	朝日和男	→	→	朝日和男
	→	→	荒木憲二	→	→	安藤米秋
	→	→	安藤米秋	→	→	石川茂雄
	→	→	石川茂雄	→	→	稲田萬吉
	→	→	稲田萬吉	→	→	猪子正治
	→	→	岩瀬釧太郎	→	→	岩瀬釧太郎
	→	→	岩田 勲	→	→	岩田 勲
	→	→	岩田正次	→	→	神谷 進
	→	→	神谷 進	→	→	木村守雄
	→	→	木下貞義	→	→	小島幹寛
	→	→	木村森助	→	→	後藤任利
	→	→	櫛田英也	→	→	鈴木梶三郎
	→	→	小島幹寛	→	→	鈴木尚房
	→	→	沢井義平	→	→	高瀬善重
	→	→	鈴木梶三郎	→	→	成田鉦一
	→	→	内藤定治	→	→	野田三郎
	→	→	中川豊太郎	→	→	服部幸夫
	→	→	成田重彦	→	→	平野伸太郎
	→	→	成田鉦一	→	→	二村一義
	→	→	二村一義	→	→	前川吉之助
	→	→	野田三郎	→	→	箕浦弘美
	→	→	箕浦弘美	→	→	三輪勝巳
	→	→	三輪勝巳	→	→	村上義雄
	→	→	村松泰央	→	→	山田清三
(欠)	曾我米三	山田清三	→	→	鷺津順市	
監 事	→	→	澤井平治	→	→	安藤利彦
	→	→	柴田藤一	→	→	柴田藤一
	→	→	堀場茂三	→	→	堀場茂三
顧 問	→	→	仲谷義明	大木 浩	→	大木 浩
	→	→	橋本繁蔵	鈴木礼治	→	鈴木礼治
	→	→		丹羽兵助	→	丹羽兵助
参 与	→	→		橋本繁蔵	吉川 博	吉川 博
	→	→	田中猛夫	西坂 幹	→	原田尚巳

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年
区 分	通常総会 (S61.5.20)	通常総会 (S62.5.22)	通常総会 (S63.5.24)	通常総会 (H1.5.24)	通常総会 (H2.5.22)	通常総会 (H3.5.29)
	補欠選任	補欠選任	役員改選	補欠選任	補欠選任	役員改選
会 員 数	139	140	140	138	137	136
会 長	→	→	桑原幹根	→	→	鈴木礼治
副 会 長	→	→	大羽 至	→	→	大羽 至
	→	→	日比野修三	→	→	日比野修三
	→	→	曾我米三	→	→	曾我米三
専務理事	→	→	服部 計	→	→	稲田萬吉
常務理事	螺澤鎮雄	→	螺澤鎮雄	稲熊誠夫	大井昌次	市川昭治
理 事	→	→	浅井 貢	→	→	浅田嘉行
	→	→	浅田嘉行	→	→	安藤幸治
	→	→	朝日和男	→	→	安藤利彦
	→	安藤幸治	安藤幸治	→	→	猪子正治
	→	→	石川茂雄	→	→	岩狭幸蔵
	→	→	稲田萬吉	→	→	岩田世紀夫
	→	→	猪子正治	→	→	榎村紀彦
	→	→	岩瀬釧太郎	→	→	奥村 誠
	→	→	岩田世紀夫	→	→	木下貞義
	→	→	大武義受	→	→	木村守雄
	→	→	木村守雄	→	→	栗田恵治
	→	→	小久保芳男	→	→	小島幹寛
	→	→	小島幹寛	→	→	後藤任利
	→	→	白谷隆司	→	→	佐藤善照
	→	→	鈴木梶三郎	→	→	澤井周平
	→	→	田中稲次郎	→	→	鈴木梶三郎
	→	→	中川省三	→	→	鈴木健治
	→	野田幸男	成田鉦一	→	→	鈴木尚久
	→	→	二村一義	→	→	田中稲次郎
	→	→	野田幸男	→	→	中川豊太郎
→	→	服部幸夫	→	→	成田鉦一	
→	→	平井明人	→	→	野田幸男	
→	→	箕浦弘美	→	→	服部 計	
→	→	村上義雄	→	→	箕浦弘美	
→	→	山田謹一	→	→	村上義雄	
→	→	横井 巧	→	→	山田謹一	
→	→	鷺津順市	→	→	鷺津順市	
監 事	→	→	安藤利彦	→	→	柴田藤一
	→	→	柴田藤一	→	→	二村一義
	→	→	堀場茂三	→	→	堀田清之
顧 問	→	→	大木 浩	→	→	大木 浩
	→	→	鈴木礼治	→	→	吉川 博
	→	→	丹羽兵助	→	→	
	→	→	吉川 博	→	→	
参 与	→	→	鈴木正徹	→	→	溝口治平

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
区 分	通常総会 (H4. 5. 21)	通常総会 (H5. 5. 24)	通常総会 (H6. 5. 25)	通常総会 (H7. 6. 2)	通常総会 (H8. 5. 13)	通常総会 (H9. 5. 28)
	-	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任	役員改選
会 員 数	161	157	155	148	144	140
会 長	→	鈴木礼治	→	鈴木礼治	→	鈴木礼治
副 会 長	→	曾我米三	→	曾我米三	→	野田幸男
	→	稲田萬吉	→	稲田萬吉	→	稲田萬吉
	→	野田幸男	→	野田幸男	→	木村守雄
専務理事	→	服部 計	→	服部 計	→	安藤幸治
常務理事	→	市川昭治	田中義久	山本 稔	→	稲葉三千夫
理 事	→	浅田嘉行	→	浅田嘉行	→	浅田嘉行
	→	安藤幸治	→	安藤幸治	→	安藤利彦
	→	安藤利彦	→	安藤利彦	→	石田元一
	→	猪子正治	→	岩狭幸蔵	→	岩狭幸蔵
	→	岩狭幸蔵	→	岩田世紀夫	→	岩田世紀夫
	→	岩田世紀夫	→	榎村紀彦	→	榎村紀彦
	→	榎村紀彦	→	大武義受	→	大武義受
	→	大武義受	→	太田隆夫	→	太田隆夫
	→	太田隆夫	→	大羽 至	大羽 恭史	大羽 恭史
	→	大羽 至	→	小川寿長	→	奥村 誠
	→	奥村 誠	→	奥村 誠	→	神谷憲善
	→	鬼頭孝生	→	神谷憲善	→	鬼頭孝生
	→	櫛田 清	→	鬼頭孝生	→	櫛田 清
	→	栗田恵治	→	櫛田 清	→	栗田恵治
	→	佐藤善照	→	栗田恵治	→	佐藤善照
	→	澤井周平	→	佐藤善照	→	澤井周平
	→	鈴木梶三郎	→	澤井周平	→	鈴木梶三郎
	→	鈴木健治	→	鈴木梶三郎	→	鈴木健治
	→	鈴木尚久	→	鈴木健治	→	曾我米三
	→	田中稲次郎	→	高瀬善孝	→	成田義昭
	→	成田義昭	→	成田義昭	→	服部 計
	→	日比野國	→	服部善明	→	服部善明
	→	前川吉之助	→	日比野國隆	→	日比野國隆
	→	箕浦弘美	→	箕浦弘美	→	箕浦弘美
	→	村上義雄	→	村上光行	→	村上光行
	→	山田謹一	→	山田謹一	→	山田謹一
	→	鷺津順市	→			
監 事	→	柴田藤一	→	鈴木 勉	→	二村一義
	→	二村一義	→	二村一義	→	堀田清之
	→	堀田清之	→	堀田清之	→	米津文成
顧 問	→	大木 浩	→	大木 浩	→	大木 浩
	→	吉川 博	→	吉川 博	→	吉川 博
参 与	→	原田昌衛	→	石川 鈞	三輪 優	→

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
区 分	通常総会 (H10. 5. 18)	通常総会 (H11. 5. 20)	通常総会 (H12. 5. 16)	通常総会 (H13. 5. 24)	第一回総会 (H14. 5. 14)	第一回総会 (H15. 5. 12)	第一回総会 (H16. 5. 13)
	補欠選任	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任
会 員 数	134	131	128	120	114	107	105
会 長	→	鈴木礼治	→	鈴木礼治	→	鈴木礼治	→
副 会 長	→	野田幸男	→	野田幸男	→	野田幸男	→
	→	稲田萬吉	→	稲田萬吉	→	木村守雄	→
	→	木村守雄	→	木村守雄	→	岩田世紀夫	→
専務理事	→	安藤幸治	→	安藤幸治	→	安藤幸治	→
常務理事	岩田順治	岩田順治	早川利之	早川利之	浅井靖	村田良輔	犬飼唯士
理 事	→	大武義受	→	大武義受	→	大武義受	→
	→	鈴木尚久	→	神谷憲善	→	神谷憲善	→
	→	神谷憲善	→	前川吉之助	→	加古季明	→
	→	佐藤善照	→	岩狭幸蔵	→	岩狭幸蔵	→
	→	岩狭幸蔵	→	浅井定一	→	浅井定一	→
	→	澤井周平	→	澤井周平	→	澤井周平	→
	→	安藤利彦	→	安藤利彦	→	安藤利彦	→
	→	服部計	→	服部善明	→	服部善明	→
	→	服部善明	→	村上光行	→	村上光行	→
	→	村上光行	→	日比野國陵	→	日比野國陵	→
	→	日比野國陵	→	櫛田清	→	櫛田清	→
	→	櫛田清	→	山田謹一	→	山田謹一	→
	→	山田謹一	→	浅田嘉行	→	浅田嘉行	→
	→	浅田嘉行	→	鈴木梶三郎	→	鈴木勝義	→
	→	太田隆夫	→	曾我米三	→	曾我米三	→
	→	鈴木梶三郎	→	大羽恭史	→	大羽恭史	→
	→	曾我米三	→	鬼頭孝生		成田義昭	→
	→	大羽恭史	→	成田義昭	→	箕浦弘美	→
	→	成田義昭	→	岩田世紀夫	→	米倉敏弘	→
	→	岩田世紀夫	→	箕浦弘美	→	奥村誠	→
→	鬼頭孝生	→	米倉敏弘	→	榎村紀彦	→	
→	箕浦弘美	→	奥村誠	→	栗田和典	→	
→	鈴木健治	→	榎村紀彦	→	後藤良美	→	
→	米倉敏弘	→	栗田和典	→	田辺正樹	→	
→	栗田恵治	→	後藤良美	→			
→	榎村紀彦	→	田辺正樹	→			
→	奥村誠	→					
監 事	大嶋準彦	大嶋準彦	→	堀田清之	→	堀田清之	→
	→	堀田清之	→	米津文成	→	米津文成	→
	→	米津文成	→				
顧 問	→	大木浩	→	大木浩	→	大木浩	→
	→	吉川博	→	吉川博	→	吉川博	→
参 与	→	岩月邦彦	→	村瀬良久	小野寺健	小野寺健	小出義光

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成21年	平成21年
区 分	第一回総会 (H17. 5. 24)	第一回総会 (H18. 5. 22)	第一回総会 (H19. 5. 18)	第一回総会 (H20. 5. 26)	第一回総会 (H21. 5. 27)	理 事 会 (H21. 9. 24)	理 事 会 (H22. 1. 18)
	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任	補欠選任
会 員 数	97	97	91	98	93	93	93
会 長	鈴木礼治	→	鈴木礼治	→	鈴木礼治	→	→
副 会 長	野田幸男	→	木村守雄	→	木村守雄	→	→
	木村守雄	→	岩田世紀夫	→	安藤幸治	大羽恭史	→
	岩田世紀夫	→	安藤幸治	→	大羽恭史	山田謹一	野田明孝
専務理事	安藤幸治	→	山田謹一	→	山田謹一	—	山田謹一
常務理事	犬飼唯士	古井正司	古井正司	磯部泰壽	磯部泰壽	→	→
理 事	小川寿長	→	小川寿長	→	荒木 茂	→	→
	神谷憲善	→	加古季明	→	加古季明	→	→
	加古季明	→	青木 登	→	青木 登	→	→
	浅井定一	→	浅井定一	→	浅井定一	→	→
	杉本 隆	→	杉本 隆	→	杉本 隆	→	→
	澤井周平	→	澤井周平	→	澤井周平	→	→
	安藤利彦	→	安藤利彦	→	安藤利彦	→	→
	村上光行	→	鈴木保	→	鈴木保	→	→
	日比野國陵	→	櫛田 清	→	櫛田 清	→	→
	櫛田 清	→	大嶋準彦	→	大嶋準彦	→	→
	小関祐司	→	鈴木昌義	→	鈴木昌義	→	→
	山田謹一	→	浅田嘉行	→	浅田嘉行	→	→
	浅田嘉行	→	野田幸男	→	野田幸男	→	→
	鈴木勝義	→	曾我米三	→	曾我公彦	→	→
	曾我米三	→	大羽恭史	→	岩田孝逸	→	→
	大羽恭史	→	箕浦弘美	→	野田明孝	→	→
	成田義昭	→	米倉敏弘	→	米倉敏弘	→	→
	箕浦弘美	→	奥村 勝	→	奥村 勝	→	→
	米倉敏弘	→	榎村紀彦	→	榎村紀彦	→	→
		奥村 勝	→	栗田和典	→	栗田和典	→
	榎村紀彦	→	後藤良美	→	後藤良美	→	→
	栗田和典	→	田辺正樹	→	田辺正樹	→	→
	後藤良美	→					
	田辺正樹	→					
監 事	堀田清之 米津文成	→ →	堀田清之 米津文成	→ →	堀田清之 米津文成	→ →	→ →
顧 問	大木 浩 吉川 博	→ →	吉川 博	佐宗靖宏	野田幸男 佐宗靖宏	野田幸男 佐宗靖宏	野田幸男 佐宗靖宏
参 与	小出義光	→	永田清	→	永田清	→	→

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
区 分	第一回総会 (H22. 5. 20)	第一回総会 (H23. 5. 25)	通常総会 (H24. 5. 21)	通常総会 (H25. 5. 20)	通常総会 (H26. 5. 27)
	補欠選任	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任
会 員 数	92	89	88	85	83
名 誉 会 長	鈴木礼治	鈴木礼治	→	鈴木礼治	→
会 長	木村守雄	大羽恭史	→	大羽恭史	→
副 会 長	大羽恭史	野田明孝	→	野田明孝	→
	野田明孝	栗田和典	→	栗田和典	→
	栗田和典	岩田孝逸	→	岩田孝逸	→
		山田謹一	→	山田謹一	→
専務理事	山田謹一	曾我公彦	→	曾我公彦	→
常務理事	山下和巳	山下和巳			
理 事	荒木 茂		鈴木才将	鈴木才将	森本真治
	加古季明	加古季明	→	加古季明	→
	青木 登	荒木 茂	→	荒木 茂	竹内文康
	浅井定一	青木 登	→	青木 登	→
	杉本 隆	木村守雄	→	木村守雄	→
	澤井周平	杉本 隆	→	杉本 隆	→
	安藤利彦	加藤賢史	→	佐藤善雄	→
	鈴木 保	澤井周平	→	村井直明	→
	榎田 清	安藤利彦	村上 幸	安藤利彦	→
	大嶋準彦	鈴木 保	→	榎田 清	→
	鈴木昌義	榎田 清	→	大嶋準彦	→
	浅田嘉行	大嶋準彦	→	村上 幸	→
	曾我公彦	鈴木昌義	→	鈴木昌義	浅田康裕
	野田幸男	浅田嘉行	→	浅田嘉行	太田光則
	岩田孝逸	野田幸男	→	朝日清高	堀田清之
	野田明孝	野田吉光	→	米倉敏弘	→
	米倉敏弘	米倉敏弘	→	奥村 勝	→
	奥村 勝	奥村 勝	→	榎村紀彦	→
	榎村紀彦	榎村紀彦	→	後藤良美	→
	後藤良美	後藤良美	→	田辺正樹	→
田辺正樹	田辺正樹	→	大岩克重	→	
	大岩克重	→			
監 事	堀田清之	堀田清之	→	伊藤博明	加藤賢史
	米津文成	伊藤博明	→	加藤賢史	伊藤博明
顧 問	野田幸男	木村守雄	→	木村守雄	→
	佐宗靖太	野田幸男 佐宗靖太			
参 与	小出茂樹	小出茂樹	中野幹也	中野幹也	中野幹也

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
区 分	通常総会 (H27. 5. 25)	通常総会 (H28. 5. 24)	通常総会 (H29. 5. 25)	通常総会 (H30. 5. 24)	通常総会 (R元. 5. 28)
	役員改選	補欠選任	役員改選	補欠選任	役員改選
会 員 数	83	78	75	73	72
名 誉 会 長	鈴木礼治	→	大村秀章	→	大村秀章
会 長	大羽恭史	→	大羽恭史	→	大羽恭史
副 会 長	野田明孝	→	栗田和典	→	栗田和典
	栗田和典				
	岩田孝逸				
山田謹一	→	山田謹一	→	山田謹一	
専務理事	曾我公彦	→	曾我公彦	→	曾我公彦
常務理事					
理 事	今井克彦	金沢輝芳	仲井靖	→	川嶋和子
	加古季明	→	竹内文康	→	小久保理
	竹内文康	→	小久保理		
	加藤賢史	→	加藤賢史		
	佐藤善雄	→	佐藤善雄		
	村井直明	→			
	櫛田清	→			
	大嶋準彦	→	大嶋準彦		
	鈴木昌義	→	鈴木昌義		
		野田明孝	野田明孝		
	浅田康裕	→	浅田康裕		
	太田光則	野田豊嗣	太田光則		
	堀田清之	→	野田豊嗣		
	米倉敏弘	→	堀田清之		
		岩田孝逸	米倉敏弘		
	奥村勝	→	岩田孝逸		
	榎村紀彦	→			
			乾伸市郎		
			堀田和裕		
後藤良美	→	奥村勝			
田辺正樹	→	榎村紀彦			
大岩克重	→	後藤良美			
		田辺正樹			
		永田尚也			
		花村均			
監 事	杉本隆	→	杉本隆	→	伊藤博明
	伊藤博明	→	伊藤博明	→	岩瀬浩司
顧 問	木村守雄	→	木村守雄		
参 与	加藤正人	加藤正人	高橋智保	→	中根俊樹

愛知県漬物協会 歴代役員名簿

年 度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
区 分	通常総会 (R2.6.9) 補欠選任	通常総会 (R3.6.7) 役員改選	通常総会 (R4.5.24) 補欠選任	通常総会 (R5.5.29) 役員改選
会 員 数	66	63	60	56
名 誉 会 長	→	大村秀章	→	大村秀章
会 長	→	山田謹一	→	曾我公彦
副 会 長	→	栗田和典	→	栗田和典
		野田明孝	→	野田明孝
		岩田孝逸	→	岩田孝逸
		佐藤善雄	→	
専務理事	→	曾我公彦	→	浅田康裕
常務理事				
理 事	→	西川雅規	伴 充 晃	伊藤寛泰
	→	中川尚也	→	田中準一郎
	→	田中準一郎	→	木村孝徳
	→		→	佐藤善雄
	→	杉本 隆	→	杉本 隆
	→		→	
	→	鈴木昌義	→	鈴木昌義
	→	浅田康裕	→	
	→	太田光則	→	太田光則
	→	岩田浩行 岩瀬浩司	→	岩瀬浩司
	→	堀田清之	→	堀田清之
	→	乾伸市郎	→	乾伸市郎
	→	米倉裕貴	→	米倉裕貴
	→	堀田和裕	山田耕平	山田耕平
	→	岩田浩行	→	岩田浩行
	→		→	
	→	奥村 勝	→	奥村 勝
	→	後藤良美	→	後藤良美
	→	田辺正樹	→	田辺正樹
	→	永田尚也	→	永田尚也
→	花村 均	→	花村 均	
監 事	→	伊藤博明	→	伊藤博明
	→	伊藤嘉浩	→	伊藤嘉浩
顧 問		大羽恭史	→	大羽恭史
				山田謹一
参 与	→	中根俊樹	矢野浩二	鈴木希明

創立70周年記念

愛知のつけもの

2024年3月31日発行

発行 公益社団法人愛知県漬物協会
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
(愛知県庁園芸農産課内)

T E L : 052-954-6416

F A X : 052-954-6932

H P : <http://www.tsukemono.sakura.ne.jp/>

E-mail : mail@tsukemono.sakura.ne.jp